

与謝野町農業技術者会報告

令和3年4月

与謝野町農業技術者会報告

日時：令和3年4月21日(水)
13:30~14:50

場所：加悦庁舎元氣館視聴覚室

出席者：京都府丹後広域振興局 農林商工部 農商工連携・推進課 農業振興係 1名
丹後農業改良普及センター 産地づくり係 1名
京都農業協同組合 企画営農課丹後駐在所 1名
野田川支店生産課 1名
京都府農業会議 現地推進役 1名
与謝野町 農業委員会事務局 1名
農林課 3名

1. 報告・協議事項等

○ 自然循環農業

◆京の豆っこ米栽培計画書のとりまとめ状況について

作付面積 127.48ha (R2年度 123.57ha)

作付人数 92名 (R2年度 97名)

- ・京の豆っこ肥料について、2,3月は順調に製造することができたが、4月に入りおからの入ってくる量が不安定になっている。先日、機械のトラブルがあり修繕対応した。
- ・元肥分の引き取りはおおかた終了している

◆委託白大豆について

作付面積 1,245.66a (R2年度 1,180.45a)

農家人数 17名 (R2年度 19名)

- ・品種はあやこがねとサチユタカを基本とし、試験栽培を開始する
- ・令和2年度の精算について、受託業者から各生産者に3月末に振込が完了している
- ・申込のあったほ場審査を4/16に実施し、2筆は条件付きの受託とした

◆トヨタ土壤センシングについて

- ・3/15~ 豆っこほ場のセンシング実施、3/31トヨタから農家さんに結果を説明
- ・センシングの結果、与謝野町全域で苦土が少ない傾向となった
- ・収穫後のほ場において、塩基バランスが良くなくCECが高い為、散布した肥料が吸収しきれず土壤に残っていることが想定されると報告を受けた
- ・説明会に参加された農家さんからは、エコマグ(苦土肥料)を使うのがいいのではとの話があった
- ・根張りを強く大きくして豆っこ米の収量を上げていきたい

○ 経営所得安定対策について

R2年産収入減少影響緩和交付金(ナラシ)申請を受付中(農政局から農家さんへ直接依頼)

R3年度交付申請書を農家組織代表者に配付依頼(6/10提出締切)

2. 農業改善計画の更新（変更）認定について

- ・申請件数 2件
- ・審査内容 経営品目の追加 1箇所
収穫量の修正 1箇所
- ・結果 2件とも認定
- ・認定期間 令和3年4月26日～令和8年4月25日

3. 関係機関からの報告事項

【普及センター】

- ・今年度、与謝野町内の指導農業士2名が退任されるので、新たな方を推薦いただきたい

【JA】

- ・米の出荷契約の取りまとめ中
- ・機構改革があり営農部広域営農センターから営農部企画営農課丹後駐在所に名称変更
- ・水田リノベーション事業の加工用米（京の輝き）として採択されたのは、府内では京丹後市だけ

【京都府農業会議】

- ・米の余剰が大きくなってきているため、米以外の作物への補助が出てくると考えている

4. その他

○京式部について

- ・与謝野町で作付けされるのは3農家
- ・栽培の敷居を高くするのは良くない
- ・コシヒカリより買取価格は高いようだが、価格は未定
- ・コロナウイルスの影響で試食会等のPRが予定より出来ていない

○豆っこ肥料、供給2割制限について

- ・有機アグレットの支援をしてほしいと要望を聞いているが、コロナ支援は損失補填に使えるいことと、今から補助をすると豆っこほ場面積を減らした農家さんがいる中で不公平が生じることから、次期作につながる秋作業の土壌改良材に対して補助を考えている

○農地中間管理事業で石川下地を進めていきたい、大切井堰の改修を控えている

次回の技術者会の開催について 5月27日（木） 13時30分～